

様式第 2 号

視察研修先	長野県小諸市議会	氏名	佐藤耕治
視察研修項目	有害鳥獣商品化施設事業について		
<p>概要</p> <p>小諸市は、長野県の浅間山の南斜面に広がり、千曲川が流れる詩情豊かな高原都市。 人口:40,599 人 面積:98,55 km²</p> <p>平成 23 年頃から農作物にニホンジカの被害が発生した。有害鳥獣(シカ)を駆除し、駆除したシカの有効活用を図るため、加工販売し、効果的な野生鳥獣対策を目指しもの。近隣自治体と連携し広域的な鳥獣被害対策手段を確立し、被害の低減および解体加工施設での雇用を創出している。県所有の休止中の犬・猫殺処分場を購入し、平成 28 年に加工施設として設備等を整備した。</p> <p>捕獲したシカを搬入・解体し、鹿肉ペットフード商品を開発・販売することで処理費用の軽減と、新たな地域ブランド商品を創り出すことを目的としている。</p> <p>感想</p> <p>これまでは、鹿を捕獲し、鹿肉を廃棄するしかなかったニホンジカの捕獲個体を資源として活かし、持続可能な鳥獣対策を可能にした先進的モデルであった。</p> <p>麻布大学と小諸市の連携による共同研究開発が行われていること。鹿肉の安全性を確認するため、寄生虫や病原性微生物の有無の調査を麻布大学が実施している。さらに、嗜好性実験を行い、独自の「鹿肉サラミ」を商品化している。専門知識のある大学との連携の重要性。以前は、有害鳥獣駆除を猟友会に業務委託をしていたが実施隊(特別職非常勤公務員)を行政主体で行って農業を守っていることに感銘した。</p> <p>実施隊構成員は、総括責任者 1 名(農林課長)、実施隊長 1 名(専門員)、捕獲部 44 名(狩猟免許所持者)、麻酔部 3 名(獣医師)、研究部 3 名(研究部)、事務局 8 名(市職員)と充実している。</p> <p>考察</p> <p>シカの被害が深刻化している要因として、暖冬の年が増えたことで、本来であれば死んでしまう個体の生存率が上昇していること、また、里山に住む人が減少したことで、ニホンジカの活動範囲が広がっていること、さらにハンターの減少と高齢化が進んだことによる捕獲にあたる人手不足などが挙げられる。本市においても現在、熊やイノシシの発生と被害が報告されているが、近年の気候変動による暖冬が続くとニホンジカの発生も予断できないことである。特に本市のブランドであるサクランボをはじめとした果物に大きな被害とならぬよう注意喚起が必要である。さらに、猟友会の構成員を増員するためにも、手厚い支援が重要であります。農業被害対策とともに管理運営の更なる強化に関係機関と一丸となって取り組んで行かなくてはならないと強く感じた。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	群馬県高崎市議会	氏名	佐藤耕治
視察研修項目	農業者支援のための各種補助制度について		
<p>概要</p> <p>高崎市は東京から北西約 100km に位置し、関東と甲信越を結ぶ要衝として発展してきている。ビジネス規模と人口では群馬県最大となっている。平成 18 年 5 町と合併、平成 21 年に 1 町と合併。かつては宿場町として栄えた。音楽に関する活動が盛んなまちである。</p> <p>人口: 369, 599 人 面積: 459. 16 km²</p> <p>農業地域平野部では、コメ、ムギ、野菜が中心。丘陵地から山間部は、畜産や果樹、キノコ栽培など。地域の特色を生かした加工品づくりなども盛んに行われている。</p> <p>地産多消(地産地消と地産他消)を推進しており、農業者への支援の助成制度が充実。</p> <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 次産業化等推進事業補助金 ハード事業: 4/5 以内(上限 1, 000 万円)、ソフト事業: 定額(上限 200 万円) 野菜や果物の加工施設整備等に利用されており、活用しやすい様に申請は、簡単に行っている。 ・ ブランド商品開発事業補助金 新品種や新商品の開発及び普及宣伝費に係る経費の 4/5 支援。 新商品の開発やパッケージ開発などの普及活動費: 定額(200 万円以内) ・ 農地再生推進事業補助金 樹木の伐採から土壌改良までの、農地として利用できる状態への再生まで総合的に支援する補助に加え、規模拡大するための農業機械・建設用機械の購入支援、ミニバックホー等は中古でも適用範囲となっている。(チェーンソー・草刈り機・タイヤショベル等) <p>考察</p> <p>中古の重機購入は、大変魅力的な支援であり、本市でも検討が必要だと感じた。経営規模拡大の農家、やる気のある方々や新規就農者の支援等の申請手続きの簡素化を勧めることが農業振興に繋がると思う。</p> <p>農家の皆さんの意見等をお聞きしながら、必要な時に必要な支援策を実施していくことが持続可能な農業。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	群馬県館林市議会	氏名	佐藤耕治
視察研修項目	つつじ岡公園管理事業		
<p>概要</p> <p>群馬県の南東部で、関東地方の中心部に位置し、県都前橋市へ約 50 km と県内主要都市中最も離れているが東京浅草まで 70 km である。昭和 29 年に 1 町 7 か村の大合併により「館林市」が誕生した。</p> <p>人口:73,967 人 面積:60.97 km²</p> <p>市の花がヤマツツジ。分副茶釜のものがたりで知られる茂林寺などの観光地がある。つつじが岡公園は、400 年以上前から「つつじが崎」と呼ばれ、古くからつつじが自生していた歴史のある公園。推定樹齢 800 年のヤマツツジを始めとする古木群が有名で国の文化財「名勝」に指定されている。100 余品種・約 1 万株のつつじが植栽されている。</p> <p>つつじまつりの期間 4 月から 5 月上旬には多くの観光客等で賑う。年間を通しての満開のつつじや日本遺産「里沼」の立体的な 3D 映像に風やミストなどを加えた「4Dシアター」を楽しむことができる。</p> <p>面積 38.78ha (未供用部分 沼・川等を含めると 106.3ha) 入園料 630 円 (見頃期間) / 見頃前・後 310 円</p> <p>埼玉県からの来訪者が多いことから今後、市のイベントと連携して飲食や物品販売を検討している。</p> <p>感想・考察</p> <p>平成の一桁時代に年間 30 万人の入園者数であったが、年々入園者数が減少傾向であることから、周年観光を目指していく「つつじが岡公園整備計画」を策定している。</p> <p>また、花が咲かない状況もあるとのことで、栽培管理の技術指導者の育成と共に栽培管理の重要性を強く感じた。</p> <p>本市においても、東北一のつつじ園と言っていない。来訪者の減少には、新たなターゲットの獲得や通年利用できる花以外のコンテンツの導入を検討し、つつじ公園の栽培技術者を育成していくことが必要と認識しました。</p> <p>適正な入園料があればこそ継続が図られ、来訪者へのおもてなしに屋内の施設整備を検討することの必要性を感じた。</p>			